

県民総ぐるみ教育 推進研修会

R2

地域学校協働活動

学校を核とした地域づくり

児湯地区

・ 都農町域での取組



宮崎地区

・ 宮崎東地区での取組



南那珂地区

・ 飫肥地区学校支援地域本部での取組

実践事例インタビュー集



宮崎県教育研修センター

検索



宮崎県教育庁 中部教育事務所

地域と学校とが一緒に育てる「江平っ子」

Q1 江平小学校では地域と連携、協働した活動にはどのようなものがありますか。

(江藤) 四年生と地区の方と一緒にする防災訓練や、社会福祉協議会と協力して行う福祉体験学習、地域の方と一年生とのふれあい活動等があります。また、学習支援として、ミシン学習の補助や町探検の引率等があります。



江平小学校 校長 江藤 彰一 氏

Q2 それぞれの学年の活動に協力してくださっている地域のボランティアの方々には、どのように依頼を行うのでしょうか。

(江藤) 基本的には学年の先生が、藤本コーディネーターに連絡をします。そして、藤本さんがまとめ役になって地区のボランティアに依頼をしています。

Q3 藤本さんは、具体的にはどのように地域の方に依頼をされているのでしょうか。

(藤本) 学年の先生から受けた内容について、場所はどこか、どういったボランティアが必要か等を話し合います。依頼をする際は、昨年度と同じ時は、昨年度頼んだところに連絡をしています。

Q4 これまで新しい活動や、校内だけでは対応できない場合はどのようにされるのでしょうか。

(藤本) 地区のことに限定すると、太田委員長が一番存じます。今年の一年生のふれあい活動では、コロナ禍で人数や遊びの種類の制限もありました。例年自治会長さんに参加者名簿の集約等をお願いしていますが、今年はどう進めていか迷い、校長先生や太田さんに相談しました。地区のことで太田さんに尋ねると何でも答えてくれるし、いろいろな意見も出してください。近くに頼りになる人がいて心強いです。



学校支援コーディネーター 藤本 エミ子 氏

Q5 まちづくり推進委員会の太田さんは、どのように地域の方と連絡を取られていますか。

(太田) 地区に長く住んでいると、多くの方を知ることになります。スポーツ団体や地区交流センターの方、地域の民生委員の方等とのつながりもあります。藤本さんから依頼があったら、どの方を紹介したらよいか考え、声をかけるようにしています。すると、みんな快く引き受けてくれます。自分が通った学校、子どもが通った学校ということ、皆さん学校に行ってみたいのだと思います。



中央東まちづくり推進委員会 委員長 太田 修子 氏

Q6 江平地区には、「中央東まちづくり推進委員会」のような組織がありますが、他の地区にもそのような組織はあるのでしょうか。

(太田) 現在、宮崎市内には二十七団体あり、どの地区のまちづくり推進委員会も学校と密に話し合う部会をもっており、それぞれの地域のよさを生かした活動を行っています。

(藤本) ただ、学校側は、まちづくり推進委員会にどんな部会があるのかわかりません。だからどの活動が一緒にできるのかを話し合っていくとよいのではないのでしょうか。

Q7 地域と学校とが連携して活動することの良さはどのようなものがあるのでしょうか。

(江藤) 地域と学校が連携して活動することで、地域のよりよい成長という視点を共有することができ、地域、学校としては、教育効果を高めることができ、子どもが生き生きと活動できる地域づくりにつながっていくと考えます。子ども達が教師、保護者以外の大人と接することで、キャリア教育を推進することができると考えます。

(太田) 連携することで、子ども達を知り、そのことにより、登下校の見守りや休みの時に声かけ等ができています。活動をしながら地区の方々は子ども達から

元気をもらっています。子ども達の様子をよく話しておられます。子どもと大人がながっていると感じます。

Q8 課題としてはどのようなものがあるのでしょうか。

(江藤) 連携する際に、いかに目標を共有化していくかが課題です。共有化していくためには密な話し合い等を行うことが必要ですが、先生方は忙しいので十分に話し合う時間の確保等、難しい面があります。時間の確保を解決するために、今は担任ができない部分を藤本さんがうまく動いて連絡等を取ってくださっています。

Q9 皆さんからそれぞれ今後の展望について教えてくださいませんか。

(江藤) 江平地区には、地域と学校が連携した活動ができており、お互いがウィンウィンの関係になっています。しかし、まだ連携してできる活動があるのではないかと考えています。コロナ禍で制限はありますが、さらに中央東まちづくり推進委員会と協力して、連携できる活動を増やしていきたいと思っています。

(藤本) できるだけ先生方の仕事が増えないように地域と連携を取るとき簡単にできるようにするための方法を考えていきたいです。そうすることによって先生方が子ども達のそばにいられます。

(校長) 町場の学校ではありませんが、学校と地域の連携した一昔前の姿が本校にはあります。それは地域と学校のつながりの核として、自立したPTA活動があるからだと思います。学校にはPTAが活動する部屋があり、毎週水曜日、PTAの方々が自主的に集まりいろいろな活動を行っています。親として学校を支え、そうした方がOBとなり、そのつながりで地域を支えています。そのサイクルが今も引き継がれていることに、感謝しています。



江平小学校 校長 河野 康男 氏

詳しい内容やエピソードは、以下のWebサイトへ!!

宮崎県教育研修センター

検索

※インタビューの間は、座席の間隔をとり、マスクを着用しております。



地域と学校が育てる、ふるさと飢肥に誇りをもつ子どもたち

Q1 飢肥小、飢肥中学校では地域と連携・協働した活動にはどのようなものがあるのでしょうか。

(平元) 大きく校外と校内の二つの活動に分けられます。校外では、遠足や、低学年における探検等生活科における学習内容です。担任だけではどうしても安全面で十分でない場合、宮田コーディネーターにお願いしてボランティアの方に安全面に配慮した付き添い、見守り等の活動してもらっています。



飢肥地区学校支援地域本部
コーディネーター 宮田 由美子 氏

校内では、特に多いのが家庭科です。調理実習の時やミシン指導の時に入ってもらっています。ミシンの学習で、動かし方や縫い方の指導の時、担任の支援してもらっています。

(須崎) 身近な社会に開かれた教育課程ということで、大きく二つに分けられます。一つは、地域と教材を育てる活動で、体育大会を中心に郷土の伝統である「泰平踊り」の伝承です。二つ目はキャリア教育にもなっています。飢肥の町発見です。観光町としてだけでなく飢肥の人の生き様も発見してこういう学習をしています。



飢肥中学校 教諭
須崎 孝一 氏

一つ目の泰平踊りですが、中学校の体育大会では以前は組体操をしていました。しかし、生徒数の減少で組体操が安全面のこともありできなくなりました。そこで以前から小学校でも行っており、地域の文化でもある泰平踊りの中学校バージョンをして見ないか、という意見が出まして、泰平踊りに取り組み、今年が二年目になります。

(服部) 本町組泰平踊り保存会の人たちが、小学校で三十、四十年近く前から泰平踊りを教えてくださっています。

Q2 学校側から、どのようにして宮田さんの方に依頼されるのでしょうか。

(平元) 『学校支援地域本部事業年間活動計画』があり、宮田さんに依頼する時は、「講師・ボランティア依頼書」に必要事項を書き、遅くとも二週間前には出すようにしています。

(宮田) 依頼書には、校長・教頭・教務の検印欄があり、活動内容を知らなければならないので、後は私と担任とで細かな連絡を取っています。



飢肥地区学校支援地域本部
コーディネーター 宮田 由美子 氏

(須崎) 中学校には、アイデア豊富な先生が多くいらっしゃいます。いいアイデアが出てきて、どのようにしたらできるだろうかという時、宮田さんと相談しています。定期的ではなく、何か面白いことができそうだという時に、宮田さんに連絡を取っているような状況です。

Q3 宮田さんは地区の方にどのように依頼されておられるのでしょうか。

(宮田) 基本的には電話で連絡を取っています。ただ、交通教室のように詳しく中身が分かった方がよい場合は、計画書等をコピーしたり分りやすく書き直したりして、代表者の方に渡すようにしています。ボランティアの方は、五十名ほどいらっしゃると思います。主に活動ごとに支援してくださいという団体があり、その代表者に連絡をしています。

Q4 これまでに新しい活動等の依頼があった時はどのようにおられるのでしょうか。

(宮田) 「むらさきの会」に連絡をしています。(服部) 学校に協力する、恩返しをする団体をつくらうということ、むらさきの会」ができました。市郡陸上大会で飢肥中の鉢巻きの色が紫色だったので「むらさきの会」としました。学校支援を目的とするボランティアの方の集まりです。



飢肥まちづくり協議会
会長 服部 武彦 氏

Q5 地域連携活動の課題と今後の展望についてあるのでしょうか。

(宮田) この仕事を十年近くしてきてボランティアの方の協力が多かったのですが、その方々の高齢化という課題が出てきました。世代交代ということ、若い方を見つけているのですが、若い方は仕事されている方が多く、無理にお願いできないことがこの事業のネックになっています。

Q6 皆さんからそれぞれ今後の展望について教えてください。

(平元) 年度末に年間活動計画を見直します。子ども達の教育活動にとって効果的なものは行いたいと思いますが、安全面を考えると迷うことがあります。そのように二の足を踏んだものが、宮田さんや服部さんの協力によりできたものがあります。来年度も、今年度のものにプラスして何か新しい活動ができないかと考えているところです。

(須崎) いい形で学校というものをプロデュースしていく時、飢肥地区としての押しの部分と飢肥中学校としての押しの部分とが、縦系と横系とのようにうまく織られていくのが一番いい形だと思います。その中で、放置してあるものなのか保存してあるものなのか、そしてこれは今後も保存していったほうがよいものなのかということをよく吟味して、新しい時代に合う形として残していければと思います。

(服部) 地区としては今後も学校と連携していかなければいけないと思っています。学校が一生懸命指導してくださっている挨拶については、地区でも元氣よくしてくれたいです。それが地区の人にとって励みになっていて、明日もがんばろうという気持ちになっています。学校が行っていることが地域の励みになっています。またそれが地域の活性化、発展にもなっていると思います。

詳しい内容やエピソードは、以下のWebサイトへ!!

宮崎県教育研修センター

検索

※インタビューの間は、座席の間隔をとり、マスクを着用しております。



学校を核として地域で育てる「都農っ子」の育成

Q1 都農小学校における地域と連携・協働した活動にはどのようなものがありますか。

(甲斐) 都農小学校は、地域の皆様に助けてもらっている学校です。地域といろいろな連携した活動があります。その中で一番大きいのが「おすずっ子祭り」です。例年、活動内容は、郵便ポスト作り、おじやみ、昔の遊び、絵手紙等、その年の講師の方により約十二の活動内容が決まります。



都農小学校 教諭 甲斐 健二氏

Q2 地域のボランティアの方には、どのように依頼をされるのですか。

(吉永) 講師には、今までしてくださった方に依頼するのが基本です。講師の方の中には公民館の講座での先生や生徒だった方もいらしゃいます。その他、木工教室は、町建築業組合、そば打ち体験は、そば屋さん、お菓子作りは、お菓子屋さんというふうには、その道の専門家に依頼しています。現在、ボランティア登録をされておられる方は、二百十人前後です。ボランティア募集は学校をとおして行っています。少しづつは増えている状況です。

Q3 地域学校協働活動推進員の方は、どのように地域の方に依頼をされるのですか。

(甲斐) ぶどう園見学という学習があるのですが、これは協力してくださる農家が決まっていますので、地域コーディネーターが、直接農家さんに連絡を取って行っています。これとは別に、新しくスイカを育てようという学習を行いました。なかなかうまく育たなかったため、地域コーディネーターに相談してスイカ農家さんを紹介してもらい、育て方のアドバイスをもらったということがあります。非常に助かりました。

(山之口) 地域コーディネーターの活動として、今年挨拶で各学校を回ったこと、他、職員研修や職員会議の中でこういうことができず、ぜひ依頼してくださいといった積極的な声かけもしていました。こうしたことをきっかけにして、先生方の働き方改革にもつながりますが、地域コーディネーターも地域に出て行って人探しを始めるので、これは非常にいいシステムだと思っています。

(吉永) 都農南小では、赤へん先生の依頼がありました。これは「チャレンジ赤へん先生」として十五分のドリル学習で行った問題の丸付けを、先生の代わりに行う内容です。各学年一人ずつ六人の方にしてもらっています。ここ数年参加しておられる七十代の方がおられ、今年もしたいという申し出があったのですが、新型コロナウイルスの關係で学校の方で中止となっていますと話をしたことがあります。



都農町社会教育係長 吉永 真也氏

Q4 地域と学校とが連携して活動することの良さはどのようなものがありますか。

(甲斐) 見守り活動等いろいろとしたいたいしているのですが、活動に参加することにより地区の方が学校の教育活動を知ることがあります。一方、子ども達は、地区にこういう方がおられるということを知ることが出来ます。お互い知ることによって交流が生まれてきます。こうしたことで、学校が企画した行事以外に地区での行事でも交流しやすくなっていると思います。また子ども達は地区に伝わる伝統文化を知り、それを次の時代へとつなげていくという態度も育ちます。

Q5 課題についてどのようなものがありますか。

(吉永) 一番感じていることは、ボランティアの方の高齢化があります。他には、学校と地域との双方のやりとりができる何かきっかけとなるものがあるというなど思っています。

(山之口) 今は学校支援という部分が強いかなという感じなのですが、地域学校協働本部は立ち上がって、来年度は本部長が決まり地域コーディネーターも別に付けます。今地域で活動している人達が本部の中で一緒に、都農の子ども達をどのようにしていくのかという思いを一つにしていこうと課題です。それをした上で、それぞれがやっている活動をつまみくまないでいくことです。今熱心に学校に関わっておられる方をばらばらにならないうように協働本部が中心となっていく、いき子ども達を育てていくことが大事なことだと思います。いずれは都農中に進学しますので、九年間を見通した活動ができてくるといいのかなと思います。



都農町家庭教育係長 山之口 忍氏

Q6 皆様からそれぞれ今後の展望について教えてください。

(甲斐) 「おすずっ子祭り」や「フラワーロード」といった活動を来年度計画する時に、参加者がどうしても高齢者なので、コロナ禍の中で三密を避けるような活動の工夫をしないといけないというのが、展望というより課題です。

(吉永) 来年度、地域学校協働活動推進員等がもつと学校や地域に入っていたら、それぞれを結びつけていくような地域学校協働本部としての活動をしていくことが目標になります。

詳しい内容やエピソードは、以下のWebサイトへ!!

宮崎県教育研修センター

検索

※インタビューの間は、座席の間隔をとり、マスクを着用しております。

